

2012 年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	文学部	身分	教授
氏名	山田 昌弘		
NAME	Yamada, Masahiro		

1. 研究課題

(和文) 海外で活躍する女性の実態の実証研究

(英文) A Study on Japanese women who actively work in foreign countries

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度）

(和文)

女性管理職比率が主要国最低レベルにあるよう、日本で女性が活躍する環境が整っていない。そのため、近年、海外に仕事の場を求める女性が増えている。本研究は、海外で働いている若年の日本人女性に焦点をあて、彼女の達のキャリアや仕事意識を実証調査することにより、日本女性の抱える問題点を浮かび上がらせようとするものである。特に、近年働く日本人女性が増えているアジアの新興国（シンガポール、香港）で働く若年女性（企業派遣で働く駐在員ではなく、自ら選んで働きに来ている女性）7人にインテンスブなインタビュー調査を実施した。

彼女らの全員に日本での仕事経験があり、海外での職業生活と比較した日本での仕事文化が語られた。その典型的な発言は、「きゅうくつ」「女性のモデルがない」というもので、安定しているのはよいが、仕事は自由にできない、女性に対する有形無形の差別、そして、女性にとっての将来展望がみえないことを語っていた。

また、自分の性格への言及も多く、「私は日本社会では受け入れられなかった」という語りが多く見られた。日本では女性の「ステレオタイプ」への順応圧力が強く、香港、シンガポールのようなグローバル化した都市では、外国人や女性が個性を発揮しやすい生活環境であることが分かった。

日本における閉鎖的な仕事環境と固定的なジェンダー観が、積極的な女性を海外に押し出す一要因になっていることが分かった。

(英文)

More and more young Japanese women go abroad and work actively in foreign countries. The aim of the research is to seek the reasons of the increase of the women. I did intensive interview research to 7 women working in Singapore and Hong Kong. From the research, it is concluded that rigid work culture and stereotype of gender in Japan make active women unacceptable, and put them to seek opportunities in foreign countries.

4. おもな発表論文等（予定を含む）

<p>【学術論文】（著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月）</p> <p>文学部紀要に執筆予定</p>
<p>【学会発表】（発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）</p>
<p>【図 書】（著者名、出版社名、書名、刊行年）</p> <p>山田昌弘、東洋経済新報社、『なぜ日本は若者に冷酷なのか』、2013年（三章 171p に一部発表）</p>
<p>【その他】（知的財産権、ニュースリリース等）</p> <p>（毎日新聞くらしの明日に執筆、夏頃掲載予定）</p>